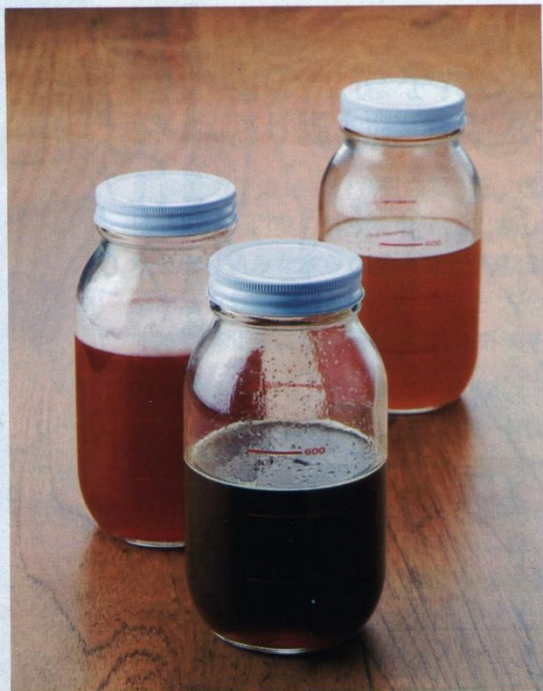




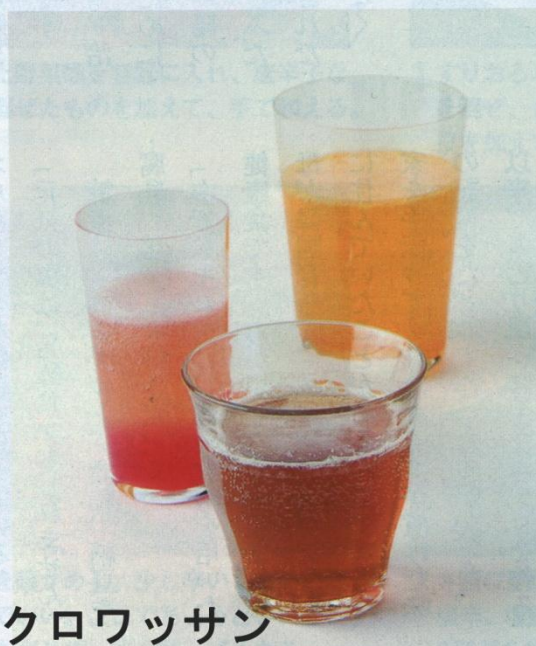
材料(作りやすい分量) リン
ご455g、甜菜糖500g

作り方 ①りんごを皮ごと1cm
くらいの賽の目に切り、甜菜
糖 $\frac{1}{4}$ 量とともに器に入れ、手
でよく混ぜ、残り $\frac{1}{4}$ 量の甜菜
糖をりんごを覆うように振り
かける。布か紙でほこりが入
らないように覆い、冷暗所に
保存する。②1日1回、手で底
のほうからよく混ぜる。最初
の3日間は器の底に甜菜糖が
溜まるので、しっかり混ぜる
こと。③1週間後、りんごを
漉して蓋のできる器にジュ
ースを移し、冷蔵庫で保存す
る。1カ月くらい保存可能。

※いちご、みかんも同じように
して作ることができます。重量
は果物1に対して、甜菜糖1.1。



皮ごと切った果物を、毎日手を入れて
底からかき混ぜる。砂糖は体を温める
作用がある、甜菜糖がおすすめ。



酵素ジュースの ソーダ水割り

大匙2、3の酵素ジュースを
ソーダ水やミネラル水、約1
カップで割る。

見えない被害実態

本格的な疫学調査 実施されず



「ゴメリの小児病院」に入院している少女たち。体のつらさを隠そうと笑顔を見せた。杉尾直哉写真

1面からつづく

チェルノブイリ原発事故による健康被害は、事故処理作業員の急性障害や、子どもたちの甲状腺がん多発が知られる。だが、それ以外の因果関係は未解明のままで。

「チェルノブイリ医師協会」(ウクライナ)の機関を中心に専門家グループがまとめた報告書発

アンゲリーナ・ニヤグ会長は「次の世代を守るため本格的な疫学調査、発病のメカニズムの解明が必要だ」と訴える。だが調査は膨大な費用がかか

るため行われていない。昨年9月、世界保健機関(WHO)など8国連

関(WHO)など8国連機関を中心とする専門家グループがまとめた報告書発

小児病院では「捨てばち療法」

20年後の現実

「チェルノブイリ」を問う

「事故、終わっていない」

「チェルノブイリ原発事故20年」と題する市民集会が16日、東京都内で開かれ、約4500人が参加した。汚染地域には約500万人が暮らし、健康被害が続いていることが紹介され、現地の専門家は「史上最悪の事故はまだ終わっていない」と呼びかけた。

講演したウクライナ最高会議顧問のユーリ・シチュバク氏

東京都内で市民集会

によると、この20年間で甲状腺がんがウクライナで8〜10倍、ベラルーシで20倍も増えた。また事故処理で急性被ばくを受けた労働者のうち約2000人が白内障、やけどに苦しむ、ウクライナだけで約10万2000人が身体障害者と認定されたと報告。被ばくによる健康被害は減るどころか増える一方。あの事故は何百万人もの生活を壊した」と訴えた。

た」と訴えた。

パネル討論では国際原子力機関(IAEA)などが「事故の最終的な死者数は約4000人」と発表したことについて、少なすぎるとの批判が相次いだ。

チェルノブイリ・ヒバクシヤ救援関西の振津かつみ医師は「国際的なコンセンサスが得られた数字とは言えない」。事故現場を何度も訪れた写真家の広河隆一さんは「原発推進のIAEAに客観的な評価ができるのか」と批判した。

【中村牧生】

表が波紋を呼んだ。「被ばくの原因の死者数は発表された。だが、いずれも来も含め4000人。この綿密な調査を踏まえたデータではない。被ばく者直後に被ばくした救急隊員ら約50人。死者数は数万人とされる通説を覆す。事故の影響ははるかに小さいことを強調するものだったからだ。

反核団体などから過小評価と批判され、WHOは13日、被害対象地域を拡大し「死者は9000人」と指摘。奇形児の増加、健康被害の大きな要因は被ばくよりも経済状況の悪化や精神的ストレスだと指摘。奇形児の増加、健康被害の大きな要因は被ばくよりも経済状況の悪化や精神的ストレスだと指摘。奇形児の増加、健康被害の大きな要因は被ばくよりも経済状況の悪化や精神的ストレスだと指摘。

ない」として「報告制度が改善したため」と結論づけている。

きた」と主張する。ベラルーシ・ゴメリの小児病院では、入院患者の約7割に先天的奇形がある。12〜16歳の患者には高血圧や脊柱側湾症が多い。原因不明の病

告書の準備に携わった日本の大島賢三・国連大使(元国連事務次長)は「どこまでが直接被害か、特定するのは専門家でも困難」と語る。

広島市出身で被爆者の大島氏が退任後、調整官の職務は国連開発計画(UNDP)に移った。

人道支援から復興支援へ。国連の政策変更は事故被害の追及に終止符を打とうとする報告書の発表と重なる。現地で5年半、医療支援に携わった菅谷昭・松本市長(元信州大助教授)は「なぜ結論を急ぐのか。経過を今

